

シンポジウム20

日本における骨粗鬆症の疫学調査からの提言 データベースから見た骨粗鬆症と脆弱性骨折

日時	2026年9月12日(土) 14:20～16:00
会場	第2会場 (2F メインホールA)
座長	伊木 雅之 (関西医科大学衛生・公衆衛生学講座) 藤原 佐枝子 (安田女子大学薬学部)

セッション概要

NDBやDPC由来データ、日本整形外科学会の全国調査、FFN-Jの多施設登録、新潟県の縦断調査という多様なデータベースから、骨粗鬆症診療と大腿骨近位部骨折の発生・治療実態を示し、低い治療率と継続率という課題と二次性骨折予防体制の強化に向けた提言を共有するセッションである。

演題プログラム

- | | |
|----------|---|
| 2-SY20-1 | レセプトデータからみた日本の骨粗鬆症診療と大腿骨近位部骨折の発生状況
中藤 真一 (あさひ総合病院整形外科)
NDB解析により大腿骨近位部骨折例の投薬率や治療継続率、二次骨折発生率の地域差と経年推移を示し、限界も述べる。 |
| 2-SY20-2 | 大腿骨近位部骨折全国調査からみる現状と課題 -日本整形外科学会骨粗鬆症委員会からの提言-
稲毛 一秀 (千葉大学大学院医学研究院整形外科)
1998年からの全国調査と6,705例の追跡調査から症例数の増加、手術待期日数、低い治療率を示し、委員会としての提言を行う。 |
| 2-SY20-3 | FFN-J大腿骨近位部骨折データベースから見えてくるもの
加藤 成隆 (福島県立医科大学 外傷学講座)
FFN-J登録データベースの設計と登録例の患者背景、退院後1年までの骨粗鬆症治療継続率を示し、今後の課題を述べる。 |
| 2-SY20-4 | 大腿骨近位部骨折の治療実態 - DPC対象病院由来データの解析を中心に -
斎藤 龍太 (ユーシービージャパン 渉外・事業開発本部)
MDVのDPCデータで2022年度診療報酬改定が入院中の骨粗鬆症薬処方に与えた変化を分割時系列解析で評価する。
。 |
| 2-SY20-5 | 新潟県における高齢者脆弱性骨折発生状況の推移 -1985年から2025年までの新潟県縦断調査より-
今井 教雄 (新潟大学健康寿命延伸・運動器疾患医学講座)
1985年からの全数調査で大腿骨近位部骨折と佐渡市4大骨折の発生率推移を示し、骨粗鬆症治療率との関連を述べる。 |